

2010年2月16日

仏クレルモンフェラン 2010年2月12日発表プレスリリース抄訳

コンパニー・ジェネラル・デ・ゼタブリスマン・ミシュラン
2009年度期末業績

ミシュランは、リセッションの中主要な財務指標を強化

売上高は148億ユーロで9.8%減にとどまる

経常利益率(特別損益算入前の営業利益率)は小幅上昇して5.8%

フリーキャッシュフローは14億ユーロのプラス

- 経常利益(特別損益算入前の営業利益)は、2008年度が9億2000万ユーロであったのに対して、8億6200万ユーロとなりました。これは主に以下の要因によるものです。
 - 販売量が14.8%と大幅に減少
 - 生産設備の遊休化またこれらの要因は以下により一部補われました。
 - 原材料コストが3億1800万ユーロ減少
 - グループの安定した価格政策とミシュランブランドの底力
 - 競争のための構造改革
- リストラ費用が4億1200万ユーロと高水準であったにもかかわらず、純利益は1億400万ユーロとなりました。
- 特に運転資金と設備投資を厳しく管理した結果、負債比率は55%の記録的低水準に抑えられました。
- 2010年もフリーキャッシュフローをプラスにできる見通しです。
- 2009年度について1株当たり1.00ユーロの配当を2010年5月7日の株主総会で提案予定です。

マネージング・ゼネラル・パートナーのミシェル・ロリエは、次のように述べています。「成熟国を中心にタイヤ需要が記録的に落ち込む中、ミシュランは迅速に、かつてないほど機敏に対応することができました。我々のチームの熱心な取り組みや厳しい管理の結果、ミシュランは堅調な業績をあげ、今後の成長の礎になる主要な財務指標を改善させました。

2010年初めの市場における見通しや、原材料コストの上昇(特に天然ゴム)を受けて、我々は非常に警戒感を持っています。このためミシュランは、競争力の維持とリーダーシップの増強に鋭く焦点を絞っています。2009年と同様改革を惜しまず、コスト規律を維持し、さらに成長国に投資して今後の成長の可能性を高めていきます。社員一丸となってミシュランは自信を持って2010年のスタートを切っています。」



(単位：百万ユーロ)	2009	2008	増減率
売上高	14,807	16,408	-9.8%
経常利益	862	920	-6.3%
経常利益率	5.8%	5.6%	+0.2 pts
乗用車・ライトトラック用タイヤ および関連販売事業	8.0%	4.3%	+3.7 pts
トラック用タイヤ および関連販売事業	(1.5%)	2.5%	-4.0 pts
特殊事業	13.3%	17.9%	-4.6 pts
税引前当期純利益	450	843	-46.6%
純利益	104	357	-70.9%
設備投資	672	1,271	-47.1%
純債務	3,051	4,273	-28.6% ¹
負債比率	55%	84%	29-pt 改善 ¹
フリーキャッシュフロー ²	1,387	(359)	+17 億 4600 万 ユーロ
従業員数 ³	109,200	117,600	-7.1%

¹ 2008 年 12 月 31 日との比較

² 営業活動によるキャッシュフロー－投資活動によるキャッシュフロー

³ 期末現在



市場動向

□ 乗用車・ライトトラック用タイヤ

2009/2008	欧州 (CIS を含む)	北米	アジア	南米	アフリカ/ 中東	合計
直需市場	-19.9%	-32.3%	+3.1%	-7.9%	-16.9%	-11.9%
市販市場	-5.2%*	-2.3%	-0.8%	-4.4%	-4.1%	-3.2%

*CISを除くと1.1%減

■ 直需市場

- 中国を除き、世界中の直需市場は 2009 年に急激に減少しました。上半期に自動車メーカーが減産を実施し、在庫を急激に減らしたためです。下半期には、自動車業界支援策により、特に成熟市場で需要が押し上げられました。
- アジアでは中国の需要が 65%の急増となり、中国は初めて米国を抜いて世界最大の市場となりました。

■ 市販市場

- 市販市場は 2009 年に大幅に縮小しました。上半期には、自動車走行距離の減少、高速道路での平均速度の低下、(タイヤの)販売業者の在庫調整プログラムの影響などにより、特に成熟市場で需要が低迷しました。一方発展途上国では、景気減速による市場への影響が徐々に広がり、中国を除く各地でのタイヤ需要が減少しました。夏以降、販売業者が在庫削減を取り止めたことから、市場全体で反発が見られました。
- 欧州では、上半期に需要は 12.1%減少しましたが、下半期には販売業者の在庫調整の終了、さらに冬用タイヤの販売好調による上昇トレンドに増幅された反発を受けて 2.1%増となりました。ロシアの需要減少による影響が残った CIS を除くと、欧州市場は前年比で 1.1%縮小しました。
- 北米市場は上半期に 10.7%縮小した後、下半期には走行距離が延びたことから、6.2%と大きく増加しました。
- アジアでは、需要は地域によって異なり、中国では 16.9%増加したものの、日本、韓国、台湾、オーストラリア、インドでは減少しました。



□ トラック用タイヤ

2009/2008	欧州 (CIS を含む)	北米	アジア	南米	アフリカ/ 中東	合計
直需市場*	-63.7%	-37.9%	-15.4%	-22.4%	-62.5%	-39.2%
市販市場 *	-19.8%	-11.6%	-2.9%	-18.6%	-4.5%	-9.6%

*ラジアルのみ

■ 直需市場

- 景気後退による深刻な影響を受け、2009年を通じて、直需市場は、トラックメーカーの設備稼働率と共に非常に低水準にとどまりました。
- 欧州では年間を通じて、トラック、トレーラー両セグメントで需要が急速に減少しました。
- 北米では、下半期には減少率が縮小しました。
- ブラジルの需要回復にも関わらず、南米市場は **22.4%**のマイナスとなりました。ブラジルでは、政府のトラック新車購入奨励策により景気回復の影響が拡大しました。
- アジア市場は通年で減少しましたが、成熟国は 2 ケタの落ち込みとなる一方、中国などは **4%**の減少にとどまり、大きなばらつきが見られました。需要が最も大きく減少したのは日本で、前年比 **49%**減となりました。

■ 市販市場

- 国際貨物市場が上半期に世界的な景気後退を受けて急速に縮小し、その後も低迷を続けたため、市販市場は通年で減少しましたが、秋には販売業者の在庫調整が終了して底入れしました。
- 欧州、北米の市場は上半期には急落しましたが、現在は安定化の兆しを見せています。まだ前年の水準を下回っているものの、貨物のトレンドと共に、需要は回復してきています。リトレッドの需要は、明らかに上向いています。
- アジアでは前年比で市場は縮小しましたが、上半期 (**12%**減) と比べて下半期には回復しました (**5.5%**増)。中国、インド、アセアン諸国の需要は増加しましたが、他の地域は低迷を続けました。全体として、市場ではラジアルへのシフトが引き続き進行しました。

□ 特殊タイヤ

- **建設機械用タイヤ:** 鉱業・採石セグメントは、2009年は記録的高水準で安定しました。これは、急成長国からの鉱石やエネルギーに対する底堅い需要が支えとなり、さらにタイヤ供給の回復によって押し上げられたためです。直需市場は特に成熟地域で大きく低迷しましたが、第 4 四半期にはわずかに反発の兆しが見られました。公共工事向けの需要は、各地域で大きく落ち込みました。
- **農業機械用タイヤ:** 直需、市販、いずれの市場も、農業従事者の購買力低下と結果としての投資意欲の後退によって打撃を受けました。特に欧州と北米で落ち込みが激しく、高性能農業機械など各セグメントに影響が及びました。



- **2 輪車用タイヤ:** 2 輪車用市場は成熟国では大幅に減少し、主要な新興市場では拡大を続けました。
- **航空機用タイヤ:** 景気減速のため、航空会社の業績が悪化し、特に一般航空機用セグメントが影響を受けました。ラジアルタイヤの需要はそれほど影響を受けませんでした。

2009 年度の売上および業績

□ 売上高

2009 年度の売上高は 148 億 700 万ユーロとなり、現在の為替水準では前年比 9.8%の減少にとどまりました。

この主な要因は、世界中のタイヤ市場が記録的に落ち込み、販売量が **14.8%**減少したことです。グループの安定した価格政策、ミシュランブランドの強さ、そして市販/直需市場ミックスが良好なことから、価格ミックスはプラスにとどまりました。このため、年間の成長率は **5.7%**押し上げられ、需要減少による影響を大きく軽減しました。

為替による影響は **0.2%**のプラスとなりました。米ドル高、人民元が小幅ながら対ユーロで上昇したことから、英ポンドとメキシコペソの下落が相殺されたためです。

□ 業績

経常利益率（特別損益算入前の営業利益率）は 5.8%となり、2008 年度の 5.6%から小幅上昇しました。

経常利益（特別損益算入前の営業利益）は 8 億 6200 万ユーロとなり、前年比 6.3%減少しました。販売量の減少により大きな打撃を受けましたが、その **10 億 9100 万ユーロ減の影響は、**価格ミックスが大幅なプラスになったこと（**7 億 9700 万ユーロ**）、生産性の構造的な改善、原材料コストの減少（**3 億 1800 万ユーロ**）によって、ほぼ相殺されました。為替変動の影響は、マイナス **8600 万ユーロ**の小幅にとどまりました。

2009 年度の純利益は、フランスの一部の工場における生産特化計画、北米における生産の再編計画の実行、フランスにおける早期退職プラン、日本の太田工場の閉鎖等に関連する特別費用 **4 億 1200 万ユーロ**を控除し、**1 億 400 万ユーロ**となりました。

□ 純財務ポジション

2009 年度中、年金基金への大きな拠出にもかかわらず、**フリーキャッシュフローは、2008 年度のマイナス 3 億 5900 万ユーロに対して、13 億 8700 万ユーロのプラスとなりました。**

増加の主な要因は、運転資金（主に在庫）と設備投資を厳しく管理したことです（設備投資は、2008 年の **12 億 7100 万ユーロ**から **6 億 7200 万ユーロ**に減少）。

結果として、負債比率は **2009 年度に 29 ポイント**改善し、**2009 年 12 月 31 日現在、55%**の記録的低水準となりました。また、純債務は **12 億 2200 万ユーロ**減少して、期末には **30 億 5100 万ユーロ**になりました。



□ セグメント情報

単位：百万ユーロ	売上高		経常利益（特別損益算入前の営業利益）		経常利益率（特別損益算入前の営業利益率）	
	2009	2008	2009	2008	2009	2008
乗用車・ライトトラック用タイヤおよび関連販売事業	8,280	8,668	661	370	8.0%	4.3%
トラック用タイヤおよび関連販売事業	4,496	5,433	(69)	138	(1.5%)	2.5%
特殊事業	2,031	2,307	270	412	13.3%	17.9%
グループ合計	14,807	16,408	862	920	5.8%	5.6%

■ 乗用車・ライトトラック用タイヤおよび関連販売事業

2009年度の売上高は82億8000万ユーロとなり、前年比4.5%減少しました。年間でマイナスになったものの、販売量は四半期ごとに着実に改善しました。2008年における価格改定、ミシュランブランドの確固たる強さ、セグメント/スピードレンジミックスの強化を反映して、価格ミックスは改善しました。

経常利益（特別損益算入前の営業利益）は、2008年の3億7000万ユーロに対して、6億6100万ユーロに達しました。営業利益率は、特に冬用タイヤによる年末の販売量の改善、価格ミックスがプラスにとどまったこと、原材料コストの下落、生産の柔軟性の改善などを受けて、2008年の4.3%から8.0%に上昇しました。

■ トラック用タイヤおよび関連販売事業

2009年度の売上高は、44億9600万ユーロとなり、前年比17.2%減少しました。需要の大幅な減少とその後も改善が見られなかった販売量の急激な減少の影響は、きわめてしっかりした価格政策に焦点を当てたことで、一部のみ相殺されました。

経常損益（特別損益算入前の営業損益）は、上半期には市場が大きく低迷する中、販売量が急激に縮小したこと、設備稼働率が低水準であったこと、原材料コストによるマイナスの影響が続いたことが原因で、1億6300万ユーロの損失となりました。しかしながら下半期には、価格の安定、原材料コスト低下によるプラスの影響、設備稼働率の上昇によって、9400万ユーロの利益をあげました。通期では、経常利益率がマイナス1.5%となったことに対応し、経常損益（特別損益算入前の営業利益）は6900万ユーロの損失となりました。

■ 特殊事業

2009年度の売上高は、2008年の23億700万ユーロから減少して、20億3100万ユーロとなりました。これは、建設機械、公共事業向け、農業機械用タイヤセグメントの直需市場での販売量の減少を反映しています。一方、鉱業・採石セグメントは底堅く安定しました。下半期には、価格を原材料コストに連動させるという条項が適用され、一部で価格が改定されました。

経常利益率は、前年は17.9%でしたが、2009年度も13.3%の高水準にとどまりました。販売量の減少は、価格ミックスにより一部相殺されました。一部の価格が原材料コストに連動するようになったにもかかわらず、価格ミックスは依然として良好でした。



コンパニー・ジェネラル・デ・ゼタブリスマン・ミシュラン

コンパニー・ジェネラル・デ・ゼタブリスマン・ミシュランの 2009 年度利益は 1 億 1600 万ユーロとなりました。

2010 年 2 月 8 日、監督委員会の会合で財務諸表が提出されました。監査は完了しており、監査報告書の作成中です。

マネージング・パートナーは、5 月 7 日（金）午前 9 時からクレルモンフェランで年次株主総会を開催します。

株主は、配当再投資のオプション付きの 1 株 1 ユーロの配当の支払についての承認を求められる予定です。



2009 年度の業務ハイライト

- 中国、インド、ブラジルでの生産施設建設を計画
- 北米の生産拠点を再編、オペリカ工場閉鎖
- フランスの生産施設の専門化、研究開発業務を強化
- 日本の太田工場の閉鎖を発表
- Shanghai Michelin Warrior Tire Co. Ltd (SMWT)の少数株持ち分を取得
- ミシュランブランド初のグローバル広告キャンペーンを開始
- 低燃費タイヤ技術でのリードを確認
 - ミシュラン・エナジー・セーバー、プライマシーHP が ADAC から高く評価
 - ミシュラン・エナジー・セーバー、100 万本を PSA Peugeot Citroen への納入を迎える
 - 北米向け新製品ミシュラン・エナジー・セーバー・オールシーズン・タイヤ
- J.D. Power Award を米国で 3 件、日本で 1 件受賞
- 新世代のミシュラン・デュラブル・テクノロジーズを採用したトラック用タイヤを発売
- Snider Tire Inc.がミシュラン・リトレッド・テクノロジーズのネットワークに参加し、北米のリトレッド事業を拡大
- TyrePlus、Euromaster、ミシュラン・トラック・サービス・センターの製品・サービス販売網を拡大
- MICHELIN OmniBib : 農業従事者の収益性を向上させるフルレンジでの製品提供
- 3 月 10 日、欧州議会が新たなタイヤ性能制度を採択
- 7 億 5000 万ユーロの起債で財務構造を強化

2009 年度のハイライトの詳細は、ミシュランのウェブサイトでご覧になれます：
www.michelin.com/corporate

